

# 巻頭言

## 「新型コロナウイルス第7波」

理事長 新谷友良

何度新型コロナウイルス感染の波が来るのか、いささか心がめげそうになりますが、7月31日に高熱が出ました。8月2日、自宅近くの病院でPCR検査を受けて翌日陽性の連絡が来ました。病院から検査結果の連絡があった日の夜、居住区の保健所からショートメールで10日間の自宅療養を指示され、そのあとすぐに今度は東京都自宅療養者フォローアップセンターから連絡があり、現在の状態が続けば、8月10日に自宅療養は解除となるが、それまで毎日「My HER-SYS（マイハーシス：厚労省新型コロナウイルス感染者等情報把握・管理支援システム）」に症状を入力するように言われました。翌日、フォローアップセンターから「パルスオキシメータ」が届き、体温、酸素飽和度など10項目以上の症状を「My HER-SYS」に入力送信する毎日でしたが、軽い喉の痛みも数日で消えて、いつもと変わらない生活に戻りました。ただ、今でも倦怠感が残っています。

自宅療養中、テレビを見る時間が多くなりましたが、NHK BSの国際ニュースは見応えがありました。朝11時のニュースでは、ウクライナ侵攻についての当事国であるロシアとウクライナ、それにアメリカ、イギリス、ドイツなどのニュースが紹介されます。字幕がついていないので、画面とテロップから内容を理解するしかありませんが、それでもロシアとウクライナの報道が随分違うのが分かります。英米の報道はウクライナサイドでありながら、報道の中立性を意識している印象を持ちました。

ウクライナ侵攻の報道とは別に、それぞれの国の市民生活の様子が多く紹介されますが、日本と大きく違うのはマスクをしている人がほとんど映らないことです。今年に入って、欧米の国はコロナ禍でも普段通りの生活をする方向に大きく舵を切っていることが様々に報道されていますが、日常生活がコロナ禍以前の姿を取り戻しているように感じます。

今回の感染拡大での新聞の報道では、感染者数で日本が世界のトップになる日が目立ちます。普段通りの生活に戻っている国の感染者が減り、マスクをつけて感染予防を励行している日本の感染者数がトップになっていることを巡って、検査方法の違い、感染者数の集計方法の違いなどに加えて、日本の新たなファクターXが様々に議論されることに複雑な思いです。